

## 令和7年度第2回畜産部会における意見等

乳業者の立場から、第2回畜産部会に当たり、御礼と意見を述べさせていただきます。

### 1 令和7年度補正予算に対する御礼

はじめに、このほど令和7年度補正予算が可決・成立しましたが、その中で、前回の畜産部会で申し上げた各種課題に対応し、牛乳乳製品の需要拡大や需給の安定を図るための各種対策が継続実施されることになったことに対しまして、心より感謝申し上げる次第です。引き続き、生産者が安心して生産が行えるよう、政策的な支援等を通じた環境整備を図っていただければ幸いです。

### 2 基本方針の検証と生産者に対する迅速な情報発信

本年4月に「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」が策定され、その方針に基づき、国は生産目標等の達成に向けて各種施策を講じているものと理解しています。

他方、乳業者は、生産者の皆様が丹精込めて生産した生乳を受け入れ、様々な牛乳乳製品に処理加工し、消費者の皆様のニーズに応じて安定的にかつ余すことなく販売することに努めているところです。こうした乳業者の立場からみると、その実現を図るためには越えなければならない様々な課題があることを、第1回畜産部会では申し上げたところです。また、こうした役割から、乳業者は需要に敏感にならざるを得ませんが、生産者は乳業者にとり生乳取引の相手先でもあるため、需給情勢についての実感や実態をストレートに伝えることは非常に難しい立場にあると感じています。

このため、生産者の皆様に対しては、行政という第三者的な立場から、ネガティブな情報も含めた客観的な需給の実態や課題・見通しなどについて迅速かつ正確にお伝えいただければ、課題への対応や検討がより早く進むのではないかと期待するところです。

### 3 基本方針策定後の情勢変化を踏まえた課題の共有

基本方針においては、バター需要は十分にあるので、脱脂粉乳の需要拡大さえできれば、目標に応じた生産が可能であるという趣旨の記載がなされているものと承知しています。

しかしながら、基本方針策定後に、酪農乳業をめぐる国際情勢は早くも

変化しつつあり、これまで高止まりしていたバターの国際価格は急速に低下傾向に転じています。他方で、為替レートは想定外に円安方向に振れているため、バターの国際価格の下落をやや緩和している状況にあります。こうした早くて振幅の大きい国際情勢の変化をみると、これまでは輸入バター価格の高止まりにより堅調であった国産バターの需要が、輸入品等に置き換えられていくことが懸念されます。

結果的に、カレントアクセスによる乳製品の輸入にも影響してくる可能性がありますので、来年度の乳製品の輸入枠の決定に当たっては、生乳生産の動向に加え、脱脂粉乳とバター双方の需給の推移を見極め、慎重な検討が必要になると考えています。

以上です。